

サトイモの早出し栽培に関する研究

第2報 催芽期間について

故後藤 道徳・江藤 博六・中原 浩二・富山 一男
(宮崎県総合農業試験場)

Late GOTŌ, M., ETŌ, H., NAKAHARA, K. and TOMIYAMA, K.
Studies on the Earlier Cropping of Taro Tubers.
(II) On the Term of Forcing of Germination.

ポリマルチによるサトイモの催芽栽培においては植付時のマルチ処理が煩雑で、多くの労力を要する。そこでこれらの省力化をはかるため、無催芽植付および催芽日数を異にした場合の収量性について検討をおこなったのでその概要を報告する。

(1) 試験方法

品種は石川早生を用い、催芽期間を無催芽および10日、20日、30日催芽とし、植付は無催芽区が3月17日、催芽区は晩霜(平均終霜4月17日)との関連から4月16日とした。その他一般的栽培管理は第1報の植付時期試験に準じた。

(2) 試験結果

生育：催芽した苗は第1表に示すように催芽日数によりかなり生育差を生じた。

第1表 植付時の苗の生育

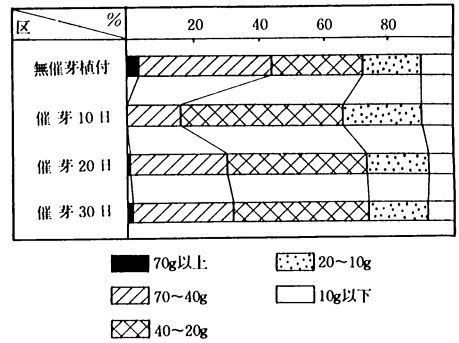
区	項目	葉柄長	葉数	根長	根数	葉重	根重
		cm	枚	cm	本	g	g
催芽10日		4	0.6	12	24	2	2
催芽20日		13	1.7	22	45	12	6
催芽30日		20	2.5	29	51	29	15

植付後の生育は、催芽日数を長くした区ほど植えたみも少なく順調であった。無催芽植付は萌(ほう)芽までに長時間を要し、また、不そろいであったが萌芽後の生育は良好であった。

収量および品質：7月28日の掘取り調査結果を第2表および第1図に示す。

第2表 収 量

区	総 収 量		品 質 別 割 合			1個平均重
	個数	重量	上物	中物	下物	
	個	kg	%	%	%	g
無催芽区	6,803	184.8	55	29	16	27.2
催芽10日	5,632	133.8	50	30	20	23.8
催芽20日	7,136	179.4	65	20	15	25.1
催芽30日	7,530	200.2	65	22	13	26.6



第1図 芋の重量別分布

総収量は催芽30日区が最も高く、次いで催芽20日区>無催芽区>催芽10日区となり、催芽10日区の減収が目立った。催芽した区間を比較すると、催芽日数に比例して収量は増加した。芋の形状からみた品質については、無催芽区および催芽10日区は上物歩合がやや劣った。

芋の大きさ別収量分布は無催芽区が、1次分球の肥大が良く大芋の割合が高かった。

(3) 要 約

① 植付作業とマルチ処理を簡易にするため、3~4cm催芽したもの(催芽10日)を試みたが、本試験結果から、催芽期間を長くし、ある程度大苗を植付た方が収量が高い傾向が認められ、催芽10日では植えたみなどから収量があがり難く、良い結果は得られなかった。

② 無催芽植付は萌芽に長期間を要し、萌芽の際マルチ面での芽やけなど欠点があり、植付法や、マルチ処理法など更に検討することが必要であるが、植付は相当に省力化されるので規模拡大の面から有利な栽培法と考えられる。